

## 地域における存在価値を高めよう！ ～求められる地域包括ケア～



いま、高齢者の移動範囲の狭さや高齢者単独世帯の増加等により、医療・介護・福祉サービスを自宅等に包括的に届けるという視点が不可欠となっています。

こうした背景のもと、**地域包括ケアシステム**づくりが求められています。そのため、地域の中で自らが担うべき役割や機能を明確化し、体制を構築することが大切です。

### ○地域包括ケアの5つの視点による取組

#### ① 医療との連携強化

- ・ 24時間対応の在宅医療、訪問看護やリハビリテーションの充実強化
- ・ 介護職員によるたんの吸引などの医療行為の実施

#### ② 介護サービスの充実強化

- ・ 特養などの介護拠点の緊急整備
- ・ 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの創設など在宅サービスの強化

#### ③ 予防の推進

- ・ できる限り要介護状態にならないための予防の取り組みや自立支援型の介護の推進

#### ④ 見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など

- ・ 一人暮らし、高齢夫婦のみ世帯の増加、認知症の増加を踏まえ、さまざまな生活支援サービスを推進

#### ⑤ 高齢期になっても住み続けることができる高齢者住まいの整備

- ・ 一定の基準を満たした有料老人ホームと高専賃を、サービス付き高齢者住宅として高齢者住まい法に位置づけ

これからも高齢者世帯数は増加していくことが予測されています。ただ、現時点で高齢化率が上昇している地域や、今後急速に進む大都市など、地域により特性は異なります。地域の状況を把握し、ニーズにこたえる体制をどのように構築するかが重要となります。

